

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立 入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 基礎問題の正答率は、4年生と6年生は目標値を下回ったが、5年生は目標値と同程度であった。
- ・ 活用問題の正答率は、6年生は目標値を下回ったが、4年生と5年生は目標値を上回った。
- ・ 興味や関心を高めるために、体験的な活動やICTの活用、授業に取り入れ、課題を解決していく学習を行い、関心を高めることができた。単元のまとめでは、今までの調べ学習を活かしテーマに沿って表現をする学習に取り組んだことで、知識・技能の活用能力の向上が見られた。

(2) 課題

- ・ 3年生の学習では、市の地図記号や、人々のくらしの移り変わりの理解について課題がある。
- ・ 4年生の学習では、先人の働きの理解について課題がある。
- ・ 5年生の学習では、産業についての学習や資料の読み取りについて課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値を8ポイント下回った。		
第5学年	目標値を1.2ポイント上回った。	令和5年度の目標値を11.2ポイント下回った。 達成率は昨年度より5.2ポイント下回った。	
第6学年	目標値を10ポイント下回った。	目標値を7.4ポイント下回った。 達成率は昨年度より2.3ポイント下回った。	令和5年度の5年生の目標値を7.5ポイント下回った。 達成率は昨年度より10.3ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年生は、目標値を12.2ポイント下回った。「地域や市の様子」では、四方位の理解や地図の読み取りの定着が不十分であった。	4年生は、目標値を1.8ポイント上回った。「市の様子や資料を基に様子の変化を表現することは正答率が低い。	ICT機器を積極的に活用し、スライドやオクリンクにまとめる学習を取り入れている。主体的に学習に取り組み、様々な資料の中から情報を見つける力を養っていく。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は、目標値と同程度、6年生は11.8ポイント下回った。 5年生の「先人のはたらき」では、年表の読み取りについて正答率が低い。6年生は「日本の工業生産」について日本の工業地帯について、資料の読み取りの正答率が低い。	5年生は、目標値を4.3ポイント上回り、6年生は6ポイント下回った。 5年生は「自然災害から暮らしを守る」について、資料をもとに考えを表現することができている。6年生は「日本の産業」について、貿易の変化について表現することが不十分である。	資料から社会的事象を読み取ることができるが、詳しく読み取ることが難しい。また、そこから自分の考えを表現することが課題である。 課題解決に向けてグループで資料を作成することを重点に置いて、情報を精選する力を向上させていく。

3 授業改善のポイント（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図の正確な読み取りを確認する活動を取り入れる。方位の見方を確認し、基礎を定着させる。 必要な資料を選定して提示し、読み取れることを児童に考えさせ、検討し合う機会を多く設ける。 資料の読み取りに関して、どこを視点におけばよいのか、活動の中で意識させる。	学習内容を自分の生活に置き換えて考えさせ、自分の考えをもち、表現する活動に取り組む。 必要な写真や資料を自ら読み取り、学びを設定する。ペア学習、グループ学習で自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やす。	単元によっては、自由進度学習を取り入れて、自分たちで計画して調べ学習を進めてきた。自分の調べたものだけでなく、全ての児童がより主体的に取り組み、自分の生活と結び付けていけるようにすることが課題である。 「他者参照」を意識させ、友達と意見を交換できるように学習環境の工夫をしていく。また、校外学習や出前授業を通して、本物に触れられるような学習計画を立てる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図を読んだり資料から社会的事象を読み取ったりする活動を設定し、全体で確認することを通して、正しく読み取る視点を定着させる。 社会的用語を身に付けるために用語を用いて説明する場を多く設ける。 正確に資料の読み取りができるように、分かったことを説明する活動を取り入れる。	社会的事象を関連付けたり総合したりして、社会的事象の意味や相互の関連などについてキーワードを使って文章にまとめる活動を取り入れる。 調べたことに自分の考えを加える学びを設定する。ペア学習、グループ学習、ICT ツールを使い共有することで、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やす。	実体験を伴う学習やゲストティーチャーによる学習をできるだけ多く設定し、興味を持たせる。 社会的事象を生活と関連させ、「なぜ」という疑問を大切にした導入を取り入れた問題解決型学習を行うことで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。

--	--	--